

応募作品

1) 作品タイトル

「船場カーフリーデー&ウィーク」～大阪の中心・船場を歩いて楽しいまちに～

2) アピールポイント

▼おおさかの中心部である船場地区は、企業だけでなく、マンション住民が増加し、観光客など多くの方が日々、訪れています。私達は、歴史ある街並みをはじめ、住み、働き、訪れるまち・船場の新たな魅力づくりを進めるために、船場カーフリーデーを提案します。

▼現在、道路・街路空間は車中心に整備され、駐車施設に多くのスペースを使っています。一方、御堂筋では「自転車交通量が10年前の約6～7倍と増加」、「歩行者と自転車が歩道内で錯綜することにより、歩行者が歩きにくい状況となっている」という課題があります。道路空間の再編のあり方として、歩行者を優先としながら多様なモビリティが安全に共存できる空間・ルールづくりが必要です。

▼そこで、改めて、船場の街路空間を人中心の視点で見直し、町全体で「居心地の良さ」を追求していくために、車の無い日(カーフリーデー)を設定し、徒歩をはじめ、様々なモビリティのあり方を試す社会実験(期間限定)を実施し、実現性の高いものから順に整備していくというものです。

◎街の移動の中心は「歩行者」ですが、歩いて楽しい街路、足を止めてゆっくりできるパブリックスペースを配置。既に利用率が高い自転車については安全に歩行者と共存できるよう走行空間の見直しを図る。高齢化社会への対応を目指し、低速パーソナルモビリティの導入(近未来型モビリティなど) 駐車・駐輪スペースの確保、公共交通(地下鉄・バス)や電動カートとの連携など、人・環境にやさしい移動手段を活かしたまちづくりを進める。

◎できれば、南北の「筋」を中心に、自動運転の低速電動カートを巡回させ、誰でも気軽に船場の街を行き来できる環境を整える(料金は無料・もしくは100円などの低額)。業務運搬物に関しては、電動アシスト付カーゴバイクを推奨し、街中各処にレンタル・待機場所・充電施設を設ける。

◎船場の中でも個々のゾーン毎に街路の性格を分け、適正な交通ネットワークと道路空間(共有型、分離型など)に整備する。船場全体では、通過交通や不要不急の自動車交通はできるだけ使用しない(ゾーン規制・時間帯規制・許可車のみ通行など)こととし、タクシーや乗り合いバス・カートで区内やゾーン間の移動を行うものとし、ます。

▼来訪者や住民が都市での生活、ビジネス、文化そのものの活気を感じることができる「場」であることが都市の賑わいの源です。そこで、様々な団体に路上使用を許可制(有料)で貸出、カフェや販売・イベントスペースとして活用してもらいます。使用料を上記のモビリティやパブリックスペースの整備・運営費に充てることができます。

※ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーは毎年9月16～22日に欧州委員会(環境総局)が推奨している交通政策推進プロジェクト。一週間を通じて、都市交通を切り口とした都市環境の改善や賑わいのあるまちづくりの創出を目的とし、過度に依存した「車の使い方」を市民・行政と一緒に考えていくというものです。なかでも、最終日に行われるカーフリーデーは、このプロジェクトの中心イベントで、都心部において1日マイカーを使わない地区が創出されます。



(写真: mayors-transport-strategy-2018、healthy-streets-for-london より)